

(別紙1)

総括研究報告書

課題番号：2020E-1

課題名：小児科後期研修におけるアドボカシー研修プログラムの開発

主任研究者 (所属施設) 国立成育医療研究センター
(所属・職名 氏名) 総合診療部緩和ケア科診療部長 余谷暢之

(研究成果の要約) わが国における小児科後期研修における Advocacy 研修のモデルを作るために、アドボカシー研修会を実施した。Web を用いた全4回のコースに20人の後期研修医が参加した。研修会後の質問紙調査からは研修会の満足度は高く、研修会を受けて小児科医としてのモチベーションアップにつながり、今後診療の中でアドボカシーを行っていかうという意欲が聞かれた。今後さらに施設や対象者を広げて検証を行っていく。

1. 研究目的

本研究の目的は、わが国における小児科後期研修における Advocacy 研修のモデルを作ることにある。

子どもたちを取り巻く健康に関する課題は、病院の中に留まらず地域においても大きな課題となっている。Child Advocacy は地域社会における子どもの健康課題に対する効果的なアプローチの一つとされており、米国では、小児科専門医研修 (residency program) において advocacy に関する研修を必修としている。しかし、わが国の小児科後期研修医教育プログラムでは効果的な Advocacy 研修は行われていない。

国立成育医療研究センターは、毎年15人前後の後期研修医が小児科後期研修を行っているが、これまで advocacy に関する研修については取り組みがなかった。本研究において小児科後期研修医向けのアドボカシー教育プログラムの作成、実践、評価を行い、わが国における小児科後期研修における Advocacy 研修のモデルの作成につなげる。

2. 研究組織

研究者	所属施設
余谷暢之	国立成育医療研究センター
轡田志穂	国立成育医療研究センター
伊藤健太	あいち小児保健医療センター
利根川尚也	沖縄県立南部医療センター
・こども医療センター	
小橋孝介	松戸市立医療センター
諸岡雄也	福岡市立子ども病院

松島崇浩 東京都立小児医療センター
小川優一 東京都立小児医療センター

3. 研究成果

本年度の研究は、pilot として小児科後期研修医向けのアドボカシー研修会を全4回で実施した。Web を使ったグループワーク主体の研修会で以下の内容とした。

コース名：小児科専攻医のためのアドボカシー教育プログラム

対象：小児科後期研修医1年目、2年目 20人

時間：平日 18時から20時の2時間 全5回コース

内容

Session 1：「Individual Advocacy について知る」 2020/12/18

ケース検討を通じてこども・家族の視点から課題を整理し、医療だけでは解決できない社会的な問題があることに気づく

Session 2：「Individual Advocacy を実践する」 2022/1/15

ケース検討を通じてこども・家族の視点から課題を整理し、医療以外の社会的な問題について認識し、解決方法を考える

Session 3：「Community Advocacy を知る」 2021/2/19

・具体的な支援の方法について検討する
・今ある資源で足りないものは何かを考える

Session 4: 「State & Federal Advocacy について考える」 2021/3/19

「よりよい支援に繋がるためにはどのようなもの、制度、仕組みがあれば良いか、そのために自分たちでできることは？」

8施設から20人の後期研修医が参加し研修会を行った。

研修会終了後の質問紙調査でも、研修会の満足度は高かった。本コースを受けて、多職種の見点を学ぶことができ、今後多職種連携を積極的に行っていこうという意欲が感じられた。また、本コースを受けたことで小児科医としてのモチベーションが上がり、自分のできることを柔軟に考えようと前向きな意見が多数聞かれた。また診療の中でもアドボカシーを意識して診療をしていこうという意見も聞かれ、研修会の効果は一定あるものと考えられた。

4. 研究内容の倫理面への配慮

人を対象とする医学研究に関する倫理指針に則り実施している。